トカラウマ

【所　在　地】鹿児島郡十島村
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 28 年９月７日

体高 110 ～ 120cm の栗色をした小さな馬で，たてがみ，尾などの毛が長く，密生している。また，体高の割には胴が長く，尻高も高い。四肢は細く動きは軽快で，性質は極めておとなしい。

トカラウマは日本の純粋の在来馬で，東南アジア全域に分布する矮小型の馬と同列のものといわれ，中国の四川省・雲南省から大陸南部の海岸地帯を経て，縄文末期に南西日本に伝わったとされる。

トカラウマの歴史は，明治 30（1897）年頃，喜界島からトカラ列島の宝島へ十数頭移入されたところから始まる。昭和 18（1943）年頃には宝島で 100 頭前後が飼育されていたようであるが，戦中・戦後は減り続け，昭和 27（1952）年には 43 頭になった。この年，研究者により純粋な在来馬としての貴重性が確認され，「トカラウマ」と命名され，その存在が世に知られるようになった。翌年，県の天然記念物に指定され，保護されるようになったが，昭和 35（1960）年には 32 頭まで減少したため県内各地へ分散された。中之島へは昭和 52（1977）年に移入され，放牧による増殖が図られている。平成 13（2001）年 12 月現在における中之島での飼育頭数は 12 頭である。

このほか，開聞山麓自然公園（53 頭），鹿児島大学入来牧場（45 頭），平川動物公園（３頭）でも飼育されている。（頭数は平成 13（2001）年 12 月現在のもの）